

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191400029		
法人名	社会福祉法人 天寿会		
事業所名	玄海町グループホーム玄海園		
所在地	佐賀県東松浦郡玄海町大字平尾380番地1		
自己評価作成日	令和2年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年12月14日	外部評価確定日	令和3年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当グループホームは2階建ての建物で、地域包括支援センターの介護予防教室、社会福祉協議会のデイサービス、宅幼老所、高齢者住宅と併設しており、そこに利用される地域の方々が時々面会に来られたり、同一敷地内にある特別養護老人ホーム玄海園との行事やクラブに参加されたりと幅広く交流が出来るように努めています。施設全体が年間を通じて花や緑に囲まれているので、気軽に散歩などを行って自然に触れて頂いています。入居者様の体調や状態に応じて、本人様の楽しみや地域との関わりがもてるように力を入れていきたいと思っております。また、今年度はコロナ禍にて面会(時間など限られた方のみ)や地域との触れ合いが困難なため、今後は、タブレットでのリモート面会を考えていこうと思っております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>町の基幹施設としての役目も担いつつ、町民にとって拠り所にもなっている。地道な活動も続けており、小中高校生を対象とした認知症サポーター講習はその一つである。また、事業所ではタブレットやそれと連動させたパソコンを駆使し、回覧文書等の閲覧まで効率よく運用されている。日々の記録はタブレットだが、全員に喚起したい内容では赤字が設定されている。職員が自負するチームワークの良さは、互いに注意し合える関係にも表れ、それは毎月のクッキングの日で見られる利用者の笑顔に繋がっている。コロナ禍の現在、法人として厳しい生活基準を定め、全職員は細心の注意を払いながらケアに従事している。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づきグループホームの目標を作成している。目標の理念は各職員が職員ノートに記入し共有、実践している。	法人が掲げる理念が基本にあり、その下に事業所独自の年間目標と各自が目指す個人目標が続いている。全職員が携行するノートの最初のページにはそれらが自書され、開く度に目に付くことで意識付けにもなっている。個人目標は年2回の評価を受け、到達の度合いも計られている。その日の体調などをみて利用者に寄り添った声掛けやケアの様子には理念が活かされているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の理美容室からの出張理美容、地区のパン屋の販売がある。母体施設への舞踊や婦人会、保育園などの訪問の際や季節の行事にもその都度、合同で参加していたが、今年度はコロナ禍にて訪問が中止になっている。また、入居者様の希望の外出支援も難しい状況である。(車内からのドライブを数回実施した)	コロナ禍でなければ夏祭り等が催され、地区の行事や馴染みの店に出掛けてみたり、デイサービスに訪れた友人が立ち寄ってくれる日常もあった。当たり前であった交流が、現在は自粛の日々である。しかし、オレンジカフェを階下で開催するなど、地域への貢献は続けており、町の基幹施設として門戸は常に開いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの資格を活用し、地域の方へ認知症の理解や支援をして頂けるように認知症サポーター講習を実施しており、今年も実施した。婦人会、民生委員会、小中高校生と幅広い住民を対象としている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月おきに実施し、入居者様の状況や施設内での取り組みなどの報告を行っている。また、運営推進委員会参加者の方からの意見も頂戴し、その議事録は事業所全体の上司や当グループホームスタッフ全員に回覧での報告を行っている。サービスについての意見や指摘事項があった場合には、月1回のグループホーム会議にて検討するようになっている。	隣接する2グループホームの合同開催で、前半後半で各事業所からの報告等を分けている。手を挙げてくれた家族も参加し、欠席者には議事録の送付も行っている。メンバーからは忌憚のない意見が出され、双方向のやり取りが窺える会議である。今年は集まることへの懸念もあったが、メンバーの声もあり、感染対策に留意しつつ顔を見ながらの会議となった。最近の意見では、9月に襲来した台風で20名程の避難者を受け入れた際(法人が福祉避難所指定)、物資の不足や3密を避けた体制作り等が反省点として挙げられている。メンバーである行政側や参加住民にとっても必要な情報であり、この会議が活かされている一例である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事や困難な時には連絡を取り、情報源としている。運営推進会議にも参加して頂いている。	オレンジカフェでの接点もあり、行政側とは実直に対応してもらえる関係を築いている。法人には解決策を見出す人材やスキルも整っているが、行政側との協働関係も大切にしている。最近のアドバイスでは、コロナ禍での対応の確認などがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体施設に高齢者虐待防止・身体拘束検討委員会が設置されており、当グループホームからも委員を選任している。月1回、グループホーム会議で身体拘束は行っていないが、センサーマットやスピーチロックなど身体拘束に類似する内容を会議で検討しており、その内容を身体拘束委員会で報告・再検討してもらっている。その議事録は施設全体に回覧されている。また、新入社員には身体拘束についての勉強会が計画されている。当、グループホームの玄関は施錠せず、誰でも行き来できるようになっている。	指針があり、入居契約時には説明も行っている。法人内の各事業所から選出された委員達には検討やチェックの役目もあり、有効に機能している。委員会の内容等はパソコンにアップされ、各自の閲覧状況も確認できる。また、年一回の研修では出席有無に関わらずレポート提出が求められており、全員が身体拘束の内容やその弊害まで理解することに繋がっている。仮に不適切なケアが見られた場合、職員同士が注意し合う素地もある。玄関に施錠はなく、安全に配慮した自由な暮らしが支援されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様に月1回のグループホーム会議において虐待に繋がるケアについて検討し、委員会にも報告をおこなっている。施設全体の研修会で虐待に対する勉強会も行われており参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体の研修会において年1回は相談員や社会福祉士等により講習を受けていたが、コロナ禍の為、外部講師の依頼は難しく、本年度は管理者で行う予定。現在、対象者はいないが成年後見制度のパンフレットを設置し、活用に働きかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	資料などを用いて丁寧に説明し、施設利用に対する不安なども伺い緩和できるように努めている。また、施設での生活における個人の希望なども伺い可能な範囲で受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当グループホーム玄関に、ご意見箱を設置している。運営推進委員会に1名の家族様に参加して頂き意見を頂戴している。また、年2回実施している利用者様と家族様の交流会の際に家族会議を開催し、家族様の要望や意見を伺い、入居者様の支援に活かすようにしている。しかし、今年度はコロナ禍にて家族会議の開催困難にて面会時に要望や意見を伺って対応している。年1回、満足度アンケートを行って、要望を聞いている。	通常であれば家族の来所も多く、家族会などの機会も用意されていた。現在は通信アプリを使った面会など、コロナ禍であっても家族との交流は維持出来るよう努めている。独自のアンケートも実施しており、意見には答えも添えて全ての結果を公表している。また、当外部評価アンケートには、気になる点も遠慮なく言える事、相談に応じてくれる体制がある事などが寄せられている。厳しい意見にこそ真摯に向き合い、説明を尽くす姿勢も窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設全体の取り組みとして、施設長・部長・主任に対し、何でも気軽に話ができるようにサロンを設けている。また、年2回、直属上司との面会で意見を聞く機会を設けている。それ以外でも相談しやすいように、一緒に仕事をする際は上司から声かけ話しやすい雰囲気づくりに努めている。	職員の声に耳を傾ける機会としてサロンが開かれている。月6回、3人の上司が交替で務める気軽なしゃべり場であり、自由に何でも話せるよう心掛けている。また、毎月の職員会議では約2時間を要し、カンファレンスを主とした活発な意見交換が行われている。欠席の場合も会議用ノート等を使い事前提案を行うことが出来る。日頃から自由に意見が言える職場環境であり、現場の声は法人の上席にも届けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に年間及び半年の目標を立ててもらい、年2回評価を行うことで、本人の実績、達成度、努力などを把握する機会を設けている。また、時間外の削減の取り組みや有給休暇も積極的に取るように働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に年間を通じた目標を立ててもらい目標達成に必要な働きかけや内部、外部の研修などに参加する支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1度、母体施設と合同で開催している研修に参加する事で、サービスの質の向上やネットワークづくりに努めている。今後、外部研修や交流会があれば、参加を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様や家族様に見学に来ていただき、話し合いをし、不安なことや要望などを聞き、安心して頂けるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学や相談にはゆっくりと話を聞き丁寧に説明をし安心していただけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず、事前訪問を実施し入居者様の状態や生活の様子など情報収集を行って、入居当時から安全に安心して過ごしていただけるように努めている。また、必要なことはケアプランに入れ、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	金銭管理(嗜好品の買い物代行)、洗濯物たみ、塗り絵、毎月のカレンダー作り、カラオケ、生け花、運動教室への参加、おやつ作りなど限られた中でも入居者様ができること、得意なこと、興味あることなどを見出して、それが発揮できるように誘導をおこなっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が来園された時は、家族様と過ごす時間を大切にさせていただいている。近況報告や相談などもおこなっている。電話の取り次ぎの際にも日常の様子を伝えるようにしている。また、家族交流会を開催しているが、今年度は、コロナ禍にて開催を中止している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人・知人の面会を支援している。入居前のゲートボール仲間の練習見学の外出を支援していたが、今年度は、コロナ禍にて実施出来ていない。お部屋で趣味としてタブレットを使用してのリモート講習に参加される方には、講習時間前に声かけし、タブレットの使用方法を手助けし、継続して、参加していただけるように支援をしている。	初期対応として必ず行う事前訪問に加え、担当のケアマネージャーや利用していたサービス事業所、場合によっては病院関係者からも話を聞き情報を集めている。通常はそれらを基に具体的な支援が組まれるわけだが、現在は難しい状況にある。しかし、電話の取次ぎはいつでも可能であり、タブレットや通信アプリも駆使し、コロナ禍のために親しい方々との関係が途切れることのないよう感染対策にも留意しながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で落ち着いて過ごされるように、リビングで腰かける位置、運動やレクリエーションで過ごす位置など、常に気を配り誘導している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終えられた時には「困りごとがあったら何時でも連絡ください」と声かけしている為、転院時などは家族様より、本人様の状態の連絡がはいる。また、本人様の状態や家族様の要望に応じて、施設や病院、ケアマネの紹介を支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の関わりの中で訴えや希望には耳を傾けるようにしているが、入居者様が話しやすいように、入居者様一人一人に受け持ちのスタッフをつけ思いや気持ちをゆっくり伺うようにしている。入居者様からの意向に対しては、グループホーム会議で検討し、思いに添えるよう努めている。	職員には、利用者との関わりは介護のためではなく、生活を支えるためという意識が窺える。チームワークの良さも相俟って、コロナ禍にありながらも利用者の穏やかな暮らしが支援されている。スキンシップや選択肢を示す問いかけ方など、利用者の想いが汲み取れるよう努めている。ふと口にしたこともタブレット等に記録され共有し、そこからケアプランに反映させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問や面談の際にアセスメントシートを活用し入居者様や家族様に生活歴など尋ね把握している。また、入居後も面会時に入居前のことや趣味・こだわりなど尋ね情報収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の入居者様の様子を個別の経過記録や申し送りノートに記載し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には本人様や家族様からの要望を聞き、また課題がある場合はグループホーム会議で検討をおこない、必要に応じてケアプランに反映している。モニタリングを兼ねて個別援助計画書の見直しを毎月おこなっている。	ケアプラン見直し期間は、入居時から時間の経過と共に長く設定される。その間に変化があれば臨機応変な対応も行っている。本人の希望は日頃のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取っている。当外部評価アンケートでは殆どの家族が、説明を受け一緒に話し合っていると回答し、専門用語を避けた説明やオリジナルの個別援助計画書等から導き出されたプランを評価している。その計画書にはリスク欄やそれに伴う支援方法等々、オリジナルならではのアイデアが活かされている。毎月のモニタリングでは、本人がよりよく暮らすためのものとなっているかが検証されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別援助計画書を基にケアを実践し、個別記録に実践、記録、気づきなどを記入して職員間で情報共有している。また、個別援助計画書は月1回の会議の際に見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲で入居者様や家族様の希望や意向を柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族様との外出支援や関わりが主になっていたが、今年度はコロナ禍にて地域との関わりを持つことが困難な状況にて状態が落ち着いたら、取り組んでいきたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関からの定期的往診以外で受診が必要な場合は、必ず家族様に連絡を取り、受診介助している。可能な限り、家族様にも同行してもらっている。場合によっては家族様に受診に連れて行ってもらう。同行されなかった場合には、受診後必ず電話などで結果を説明している。専門医の受診が必要な時は、協力医療機関より紹介書をいただき対応している。本人様や家族様が希望すれば、かかりつけ医は継続して受け入れている。	元々、協力医の患者だった方も多く、現在は全員が協力医をかかりつけとしている。自己評価に記されているように他科受診が必要な場合の配慮と対応、また、受診への同行や結果報告等々、事業所でも不安なく暮らしてもらえるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を取得しており、協力医療機関と24時間体制での協力をおこなっている。体調不良者が出た場合には、協力医の看護職に報告し指示を受け必要に応じ受診をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院になられた際は、主治医、医療連携室の相談員などに情報提供をおこなっている。入院中も様子を見に伺ったり、電話で情報を伺ったりしている。また、病院にて退院時カンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に急変や重度化した場合の対応についても説明し、当施設ですることできない事について説明をおこなっている。入居後も家族会や各入居者様の状態変化時には、再度ご家族と話し合いの場を持ち、看取りをする場合についての提案を行っている。看護師がいらない為ご家族に不安があり、当施設での看取りはないが、年に一回看取りの研修をおこない看取りをするようになった場合にもスムーズにケアができるよう備えている。	入居契約時に指針の説明を行い、その中では事業所として出来る事と出来ない事、隣接した特養ホームも選択肢の一つである事などをきちんと話している。これまでに看取りの経験はないが、事業所の方針や体制を承知した上で希望があれば受け入れる用意もある。容態の変化に伴い、話し合いは何度でも重ねる事とし、必要であればかかりつけ医の同席や説明もある。安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体施設との合同研修に参加し、AEDの使い方や心肺蘇生の実施の仕方を消防署から指導してもらっていたが、今年度はコロナ禍にて実施困難な為、母体施設の看護師による研修に参加した。何かあった際は、上司に連絡し対応できる仕組みができています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理マニュアルを作成し、昼・夜間想定で年2回避難訓練を実施している。地域の消防団にも協力してもらい、体制もできている。原子力防災訓練にも開催時には参加している。	敷地内の法人施設が合同で行う訓練は、薄暗くなる時間帯や帰宅後に一斉連絡網での招集など、危機管理対応も考慮された内容である。地元消防団や区長の参加もある。利用者は自施設が火元設定の時にのみ屋外避難を体験し、それ以外は所内中央に集合している。通報システム等の設備が整えられ、居室からは避難済の印として名札を落とす事、全員避難完了の合図としてランタンを灯す事なども決められている。水や非常食はシェルター(原発に対応)がある隣接施設で備蓄されている。訓練での課題や反省点があれば委員会で検討し、結果はパソコンにアップされる。この件に限らず周知事項は同様に管理されているため、各自の確認もれ(未読)はない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の声かけは小声で伝えるようにし、聞こえない方に対しては、場所を移動して伝えたり、口腔ケアは自室に誘導して実施している。また、入浴はマンツーマンでおこなっている。気になる声かけに関しては、グループホーム会議で取り上げ検討している。	入浴やトイレ介助など最も配慮が必要な場面では、声の大きさやドアのノック、タオルで隠す気遣いなどを徹底している。また、職員同士が注意をし合える環境でもあり、向上へと繋がっている。個人情報の取り扱いについては法人内研修もあり意識は高い。居室の名前表示や法人便りへの写真・名前掲載は承諾を得た方のみである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいようにゆっくりと分かりやすく気持ちや希望を聞くようにし、表情や仕草などからも思いがわかるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの能力・生活のペースを大切にし、その時々で希望どおりに過ごしていただくように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びができる方は選んでもらって更衣していただいている。洗濯や整髪など、できない所を介助して身だしなみを整えている。季節に応じた服選びも心がけている。散髪は出張理美容を本人様や家族様の希望を取り入れて利用していただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は母体施設厨房にて一括調理された物をホームでつぎ分けて、食べやすくしたり、量を調整したりして提供している。嗜好についても情報提供し嫌いなものが提供されないように配慮している。また、食べたい物を可能な限り、入居者様と一緒にキッチンでおやつ作りをおこない食べていただくこともある。準備や片付けが可能な方には、手伝ってもらっている。	事業所内ではご飯と味噌汁が用意され、主菜・副菜は敷地内で一括調理され、全ての施設に配膳される。届いた食事は、必要であれば形状を変え提供している。好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、苦手な利用者があれば調理担当者によって代替えまで用意される。職員は介助を最小限に止め、出来るだけ自分で口へ運んでもらえるよう促しながら同席している。また、月に1～2回、クッキングの日というおやつ作りがある。季節の食材を取り入れ、作り、食べる様子は写真に撮り廊下に飾られている。写っている自分を見つけ笑顔と会話が始まる。記憶が残りにくくなっても、その時々を楽しんでもらいたいという職員の想いが窺える。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食ともに母体施設厨房にて管理栄養士によりバランスのとれたメニューで提供されている。水分は食事時や食間、入浴後など、適時に提供しており、摂取された量は記録に残し把握している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとりに声かけし、理解できない方や自力移動できない方は、居室まで誘導しおこなってもらい不十分なところを介助している。また2週間に1回、訪問歯科Drによる口腔ケアの実施とその指導も受けている。			

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用の方は排尿の量やパターンを把握して日中は、トイレでの排泄介助をおこなっている。ベッドサイドで自力排泄できる方は、ポータブルを設置し適時に処理もおこなっている。リハビリパンツやパンツを使用されている方も仕草やタイミングから排泄のサインを見逃さず、声かけ誘導できており失敗も少ない。	排泄に関して自立した方も数名あるが、任せたままでなく、さりげなく見守っている。各居室にトイレ設備があり、そこを利用する方が殆どのため排便・排尿は小声で確かめ把握している。その記録を基に適切な誘導が行われ、オムツ・パット類の使用枚数減やサイズダウンという効果も見られている。オムツ使用であってもトイレでの排泄が支援されており、利用者にとっては残存機能が活かせ、負担費用の軽減にも繋がっている。居室・共用ともに便座周りには手すりや可動式ひじ掛けが設置され立ち座りを助けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、毎朝ヨーグルトを提供し、10時の水分補給では、牛乳を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時、できる方には着替えの準備をいただいている。週2回以上入浴していただいているが、体調や希望によって別日に変更したり、清拭や足浴で対応している。	入浴は夏場は週3回、冬場は週2回を目安としているが、風呂の準備は毎日出来ており、希望があればこの限りではない。設備の特長としてはリフト浴が挙げられる。年を重ねる毎に浴槽の縁をまたぐ事が難しくなっても安全な入浴支援を行っている。また、浴室暖房設備もあり冬場のヒートショック対策としている。季節を感じてもらおうと柚子湯を提供したり、安定感のある椅子に座りながら前面の鏡を見て身支度も出来る。シャンプー等は個人で用意するが、扉付きの整理棚にそれぞれ収納されている。入浴しない日でも下着・肌着の交換は毎日行い清潔保持に努めている。入浴準備や衣服の脱着は出来るだけ本人に任せ見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床、日中の休息など自由にされている方もいれば、睡眠や生活リズム、その日の状態を把握し休息をとっていただくように、声かけ誘導する方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬については、薬剤師の内服薬説明書で確認を行い、職員間で情報を共有しながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活では洗濯物たたみ等手伝ってもらったり、生け花、塗り絵など希望される楽しみを提供している。また、入居者様から聞き取りをおこない月1~2回のクッキングと一緒に調理をしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、コロナ禍で外出を控えた期間が長くなり、敷地外への外出の支援が思うようにできていないが、車内のみドライブを数回と敷地内の散策を支援できた。買い物希望される方には、母体施設の売店を利用していただいている。	利用者からの希望や、季節ごとの花見など、これまでは外出も多かった。天候や体調をみて当日に決まり出掛けることもあった。このコロナ禍では感染への危惧もあり、自粛の日々である。しかし、自然に囲まれた長閑な環境に建つ事業所では、広い敷地内での散歩や隣接施設の売店で買い物など、不自由な中にも楽しみを見つけて支援している。車から降りないドライブもその一つである。全く外へ出ない利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現時点でお金を所持されている入居者様は1名で、他の方は管理が困難。買い物を希望されている入居者様はいらっしゃるので、母体施設の売店や衣類移動販売店などで買い物を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望通りに支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓からはその日の天気や季節が感じられる。ベランダの方は日当たりもよく、窓越しに日光浴をしたり、風のない日はベランダに出てお茶を飲んでいただいている。食堂の掲示板には手作りカレンダーや季節感のあるものを掲示している。	先に開設した事業所の使い勝手など、良い所を取り入れた設計である。玄関ホールから間仕切り(ドア等)無しで、すぐに明るく広いリビングに迎えられる。その奥には和室も設えてある。両側に居室等が並ぶ廊下も十分な幅であり、利用者の動線上に行動を妨げる物もない。日曜以外は清掃業者が入り、清潔に保たれた共用部分は嫌な臭気もない。この時期、換気には特に注意を払い、法人から館内アナウンスも流れるが、それ以上に朝昼晩と窓を開け、居室では常時換気扇を点けている。手を触れる箇所の消毒もこまめに行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが思い思いに過ごしていただけるように支援しているが、リビングの椅子の配置は今後も検討しながら支援をおこなっていきたいです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様にとって安心できるもの(仏壇や家族の写真など)、実際に自分で管理できるもの、家族様が希望されるものなど限られた空間の中ではあるが、その人らしい居室づくりを支援している。また、自宅で布団で過ごされていた方や事故につながり、危険な方は環境を考え、安全に過ごしていただけるようにベッドを取り外して対応している。	火気等の危険物以外、持ち込む品物に制限はしていない。自己評価に記すように利用者が居心地よく過ごせるような配慮がある。壁飾り用に取り付けてある板は程よい高さで、誕生日のお祝いメッセージなどが掛けられている。また、仏壇を持つ方には毎朝お茶を供え、利用者も売店で買った菓子などを供えている。居室の掃除では出来る事で手伝う利用者もある。家族が希望すれば居室または和室での宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能や認知症の状態を理解し、転んでもケガをしないマットを敷いたり、手すりにカバーを取り付けたり本人様に合った福祉用具を家族様に購入してもらい、本人様の行動を止めないように安全かつ自立した生活を送っていただけるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない